

令和7年1月14日

「スポーツ文化ツーリズムアワード2024」の受賞団体を発表します ～スポーツ文化ツーリズムの普及、拡大に向けて～

スポーツ庁、文化庁及び観光庁は、スポーツや文化芸術資源の融合により、新たに生まれる地域の魅力を国内外に発信し、訪日外国人旅行者の増加や国内観光の活性化を図るための政策連携の取組として「スポーツ文化ツーリズム」を推進しています。

このため、スポーツ文化ツーリズムの優れた取組を評価し普及を図るべく、昨年に引き続き「スポーツ文化ツーリズムアワード2024」の公募を実施し、25件の応募の中から、計7件の受賞団体を決定しました。（同時発表：観光庁）

受賞団体は「第8回スポーツ文化ツーリズムシンポジウム」（令和7年2月5日に東京都千代田区で開催）において表彰予定です。

【スポーツ文化ツーリズムアワード2024 受賞団体】※詳細は別添参照

[本賞]

〈スポーツ文化ツーリズム賞 1件〉

○山形県飯豊町商工観光課

『「白川湖の水没林」における「映える」カヌーツアーを主軸としたサステナブルな観光地づくり』

〈スポーツツーリズム賞 1件〉

○サロマ湖100kmウルトラマラソン実行委員会

『サロマ湖の雄大なロケーションを舞台にした100kmの日本陸連公認レース
ウルトラマラソンの原点「サロマ湖100kmウルトラマラソン」』

〈文化ツーリズム賞 1件〉

○琵琶湖疏水沿線魅力創造協議会

『フィールドミュージアム「琵琶湖疏水」の魅力発信等による文化・景観や観光振興への貢献』

[特別賞]

〈日本遺産ツーリズム賞 1件〉

○公益社団法人 日本観光振興協会

『日本遺産「御周印」(ごしゅういん)・「御周印帳」(ごしゅういんちょう)』

〈食文化ツーリズム賞 1件〉

○公益社団法人 新潟県観光協会

『地域の食文化を体現するレストランを起点とした旅を誘発する「新潟ガストロノミーアワード」』

〈新しい観光賞 2件〉

○特定非営利活動法人AYA

『「挑戦！世界自然遺産・小笠原諸島へ大冒険！」医療的ケア児やその家族がリードユーザーへ！！』

○福岡よか街プロジェクト事務局

『ホーム・アウェイ関係なく福岡を楽しもう！「福岡よか街プロジェクト」～サッカー×地域資源×ユーザー投稿による街のにぎわい創出～』

【第8回スポーツ文化ツーリズムシンポジウムについて】

日時：令和7年2月5日（水）13時00分～16時50分（開場：12時00分）予定

場所：文部科学省3階第1講堂（東京都千代田区霞が関3丁目2-2）

＜担当＞

スポーツ庁 参事官（地域振興担当）付

スポーツ地域振興調査官 塚田 （内線 3930）

専門官 藤田 （内線 3931）

stiiki@mext.go.jp

文化庁 参事官（文化拠点担当）付

参事官補佐 吉野 （内線 5051）

総括係長 久野 （内線 4869）

bunkankou@mext.go.jp

電話：03-5253-4111（代表）

スポーツ文化ツーリズムアワード2024

【スポーツ文化ツーリズム賞】入賞

別添

（申請団体）

山形県飯豊町商工観光課

「白川湖の水没林」における「映える」カヌーツアーを 主軸としたサステナブルな観光地づくり



取組概要

近年急激に人気を博した「白川湖の水没林」は、「新興・未成熟な観光地」として様々な受入態勢整備に課題があったが、「映えるカヌーツアー」等のウォータースポーツ体験が町の広告塔となり、地域の認知度や観光消費波及を牽引した。また、湖岸でのアート作品の展示やライトアップの開催により、新たな来訪者を獲得したほか、クリーンアップ活動などを行うことで、白川湖の特別な景観や下流域の文化的景観や、地元住民の生活を守りつつ、的確な情報発信等により観光消費を拡大させるサステナブルな観光地作りに取り組んでいる。

評価ポイント

- 期間限定で出現する水没林の景色の中で、カヌーツアー等の仕組化を行うことで地域経済の循環につながっている。
- 該当地域の文化的背景を活用しながら、現状の地域課題の把握・解決に向けた施策になっている。
- 積極的に他施策との連携を図り、集客の増加やメディアへの露出につながっている。

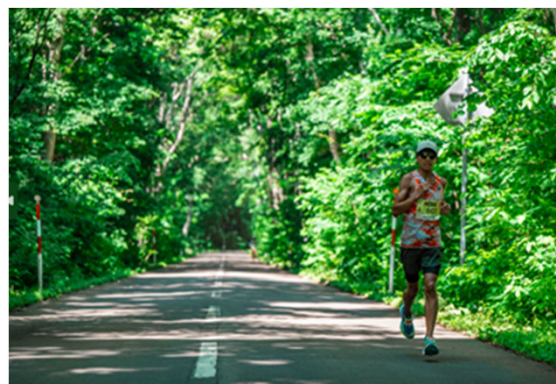


スポーツ文化ツーリズムアワード2024 【スポーツツーリズム賞】入賞

(申請団体)

サロマ湖100kmウルトラマラソン実行委員会

サロマ湖の雄大なロケーションを舞台にした
100kmの日本陸連公認レース
ウルトラマラソンの原点「サロマ湖100kmウルトラマラソン」



取組概要

1986年より開催している100kmのウルトラマラソンで、毎年6月最終週に開催し、次回で40周年となる。日本陸連公認レースとして開催しており、2023年には現日本記録も誕生している。サロマ湖畔を舞台に湧別町、佐呂間町、北見市の3自治体の合同事業としており、参加者4,000名以上が現地を訪れることで交通、宿泊のみならず様々な分野で経済効果を生み出し、地域とともに日本最大級のイベントに発展・成長している。

評価ポイント

- 地域の自然環境を生かし、地域ぐるみで取り組まれている。
- 開催地、歴史、参加者のそれぞれのストーリーが組み合わさった大会で、参加者が年々増えている。
- 大会参加者やインフルエンサーによる自発的な情報発信により、広報が自走化、リピートへつながっている。

スポーツ文化ツーリズムアワード2024 【文化ツーリズム賞】入賞

(申請団体)

琵琶湖疏水沿線魅力創造協議会

フィールドミュージアム「琵琶湖疏水」の魅力発信等による 文化・景観や観光振興への貢献



取組概要

衰退の危機にあった京都のまちを再生と飛躍に導いた「琵琶湖疏水」は、竣工から130年以上経った今でも、京都のまちに命の水を運び続ける重要な都市基盤となっており、その意義を多くの方に伝えるため、平成元年に「琵琶湖疏水記念館」を開館。平成30年には、約70年振りの舟運復活となる「びわ湖疏水船」の運航を官民協働の下で成し遂げるなど、琵琶湖疏水沿線の魅力向上や文化観光の推進及び沿線地域への周遊促進等による地域活性化のための各種取組を推進した。

評価ポイント

- 地域の歴史的・文化的な背景や日本遺産のストーリーを生かしたコンテンツにより経済効果につなげている。
- 情報発信、地域経済への貢献、インバウンドコンテンツとしての将来性など、あらゆる点において評価できる。
- 「そすいさんぽ」の散策道のようにいつでもだれでも楽しめる仕組みなど、ハード整備と併せてソフト面での整備・魅力づくりが考えられている。

スポーツ文化ツーリズムアワード2024

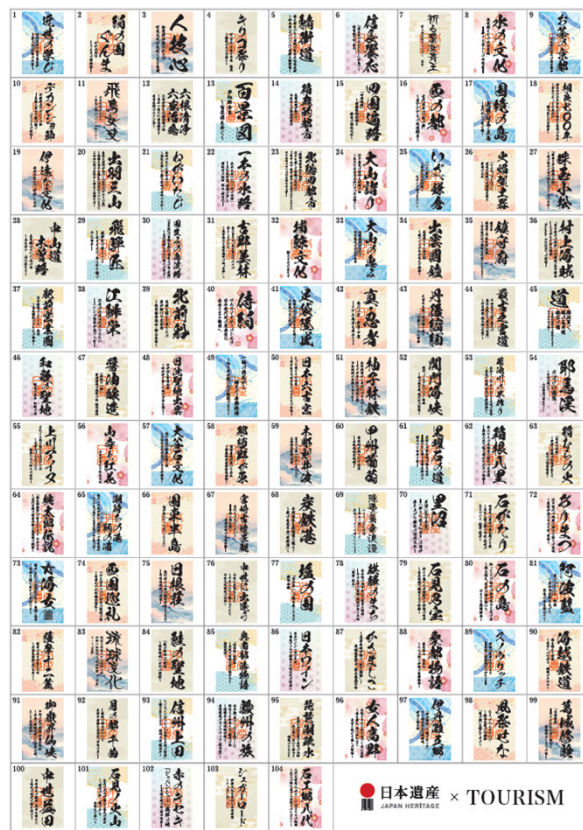
【日本遺産ツーリズム賞】特別賞

(申請団体)

公益社団法人 日本観光振興協会

日本遺産

「御周印」(ごしゅういん)・「御周印帳」(ごしゅういんちょう)



取組概要

多くの旅行者に各地域の日本遺産を広めるとともに、実際に日本遺産を体感する旅行に出かけていただくことを目指し、日本遺産104の地域でもらえる来訪の証「日本遺産 御周印」を制作。文化庁、日本遺産連盟及び全国の日本遺産協議会の協力のもと、日本遺産ごとの都道府県各地に「日本遺産 御周印」が設置されている。

「御周印帳」を持ち、各地の「御周印」を集めていただくことで日本遺産を活用した観光による人流を生み出し、また、各地における押印サービスと御周印帳販売により地域の経済効果に貢献する仕組み。

評価ポイント

- 「御周印」や「御周印帳」の作成など、全国各地の日本遺産の周遊促進を促すような、取組となっている。
- 日本遺産ツーリズムへ積極的に取り組んでおり、日本遺産そのものの認知拡大に貢献しうる取組となっている。

スポーツ文化ツーリズムアワード2024

【食文化ツーリズム賞】特別賞

(申請団体)

公益社団法人 新潟県観光協会

地域の食文化を体現するレストランを起点とした旅を誘発する
「新潟ガストロノミーアワード」



取組概要

地域の食文化を体現するレストランを発掘・表彰し、国内外に発信することで、レストランを起点とした新潟への旅を誘発させる取組。2023年と2024年の2回に渡って実施された本事業では、100の飲食店をはじめ、30の旅館・ホテル、30の特産品、30人の若手シェフを選定、「新潟への旅の目的となるレストラン等」をPR・発信することで観光へと結びつけた。「新潟＝ガストロノミー」という新たなブランドを創出し、新潟県が日本有数の食文化県であることを世界へアピールした。

評価ポイント

- 海の幸、山の幸といった食に対しての地域のポテンシャルをガストロノミーの取組につなげている。
- 特定の地域だけでなく、県全体にまたがる横断的な取組である。
- 1次産業従事者など地域住民を巻き込んでおり、将来性も期待できる。

スポーツ文化ツーリズムアワード2024 【新しい観光賞】特別賞

(申請団体)

特定非営利活動法人AYA

「挑戦！世界自然遺産・小笠原諸島へ大冒険！」 医療的ケア児やその家族がリードユーザーへ！！



取組概要

医療的ケア児やその家族に医療従事者が帯同し、受入先の小笠原諸島の観光関連企業や団体、島民の方々と一緒に島独時の自然、食、文化に関わる観光プログラムを「インクルーシブデザイン」の視点で見直し、島の新たな観光層や観光業を開拓し、誰もが参加できるツーリズムへ挑戦した。
①フェリー往復体験（24時間乗船体験）、②選択型・自由体験、③島一周ツアー、④マリン・インクルーシブ、⑤イルカウォッチング、⑥地域子供たちとの交流会、⑦島の食文化を味わう会、など、様々なプログラムに取り組んだ。

評価ポイント

- 観光の持つ力の新しい側面を世の中に発信していく非常に素晴らしい取組。
- 島全体を挙げて、ケアが必要なお客様に対しての受け入れ体制を整えている。
- 誰もが旅行に挑戦できる環境整備・インクルーシブデザイン推進への貢献に期待できる。

スポーツ文化ツーリズムアワード2024 【新しい観光賞】特別賞

(申請団体)

福岡よか街プロジェクト事務局

ホーム・アウェイ関係なく福岡を楽しもう！「福岡よか街プロジェクト」
～サッカー×地域資源×ユーザー投稿による街のにぎわい創出～



福岡よか街発信隊
プロジェクト



よか街プロジェクトは、7つの企業が連携し、
スポーツで社会を変える大きなムーブメントを
作ることを目指します。

**アビスパとともに、
福岡の街をもっと元気に！**



ユーザー投稿数：400件強

取組概要

アビスパ福岡サポーターとアウェイチームサポーターを対象に、「ユニタビ」アプリ内で、福岡内の“よか情報”をサポーターのユーザー投稿型で集約・発信し、サポーターの「行きたい」という意識を創出させるとともに、地域内のバス・シェアサイクル・シェアスクーターと連携し、「試合日限定バス1日乗車券」の販売やクーポンの提供を行い、試合前後の行動変容を促進させた。クラブを含めた7つの企業、サポーターが共創し、地域経済活性化に取り組んだスポーツ業界において先進性の高いプロジェクト。

評価ポイント

- 試合とは切っても切り離せない関係にある試合前後の「食」「観光・周遊」を中心としたサポーター・観戦客向けの企画で、高いリピート率が期待できる。
- スポーツイベントをきっかけにユーザー投稿型で地域の魅力や食文化を伝える新しい仕掛けである。
- 地域への経済効果があり、他地域や他コンテンツでの汎用性が高い。

「スポーツ文化ツーリズムアワード 2024」について

(1) 概要

スポーツ庁、文化庁、観光庁の三庁は、2016年3月に「スポーツ庁、文化庁及び観光庁の包括的連携協定」を締結し、2016年度から毎年、「スポーツ文化ツーリズムアワード」を実施しています。

スポーツ文化ツーリズムアワードとは、スポーツ文化ツーリズム（注）の推進に寄与する取組やイベントを公募し、選定・表彰を行うものです。第9回となる本年度では、応募のあった25件の取組やイベントの中から、計7件の受賞団体を決定しました。

注：各地域のスポーツイベントと文化芸術資源を結び付けて、新たに生まれる地域ブランドや日本ブランドを確立・発信し、訪日外国人旅行者の増加や、国内観光の活性化を図り、日本及び地域経済の活性化を目指すこと。

【本賞】

- スポーツ文化ツーリズム賞
- スポーツツーリズム賞
- 文化ツーリズム賞

【特別賞】

- 日本遺産ツーリズム賞
- 食文化ツーリズム賞
- 新しい観光賞

(2) スケジュール

2024年8月6日～10月15日	公募期間
11月29日	審査委員会
2025年1月14日	報道発表

(3) 今後について

2025年2月5日（水）に開催予定の「スポーツ文化ツーリズムシンポジウム」において、「スポーツ文化ツーリズムアワード 2024」表彰式を実施し、受賞団体に対して、三庁長官から表彰を行います。

(4) これまでの受賞団体・取組について

ホームページをご参照ください。

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/jsa_00028.html